

地域と共に創る教育

島根大学 大学教育センター
准教授 中村 怜詞



独立行政法人教職員支援機構

1 地域で学ぶ意義

2 地域との協働体制を構築する

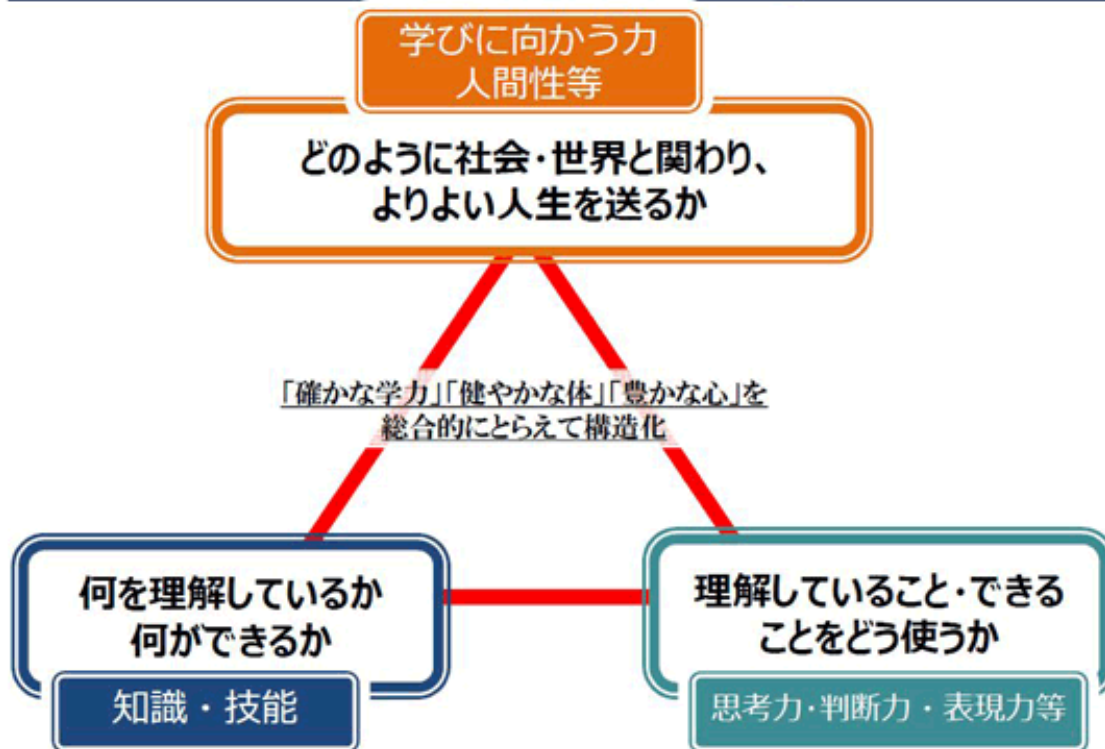
1 地域で学ぶ意義

① 資質・能力の発達

② 当事者意識の醸成

育てたい資質・能力

育成を目指す資質・能力の三つの柱



資質・能力の例

人間関係形成力

- 相手を受け入れ、信頼関係を構築
- 周囲の意欲を引き出し、協力して課題に取り組む
- 自分の意見を主張し、建設的に議論する

自己調整力

- ストレスマネジメント
- タイムマネジメント
- 自分の強みと弱みを理解した上で自分の成長機会を創る
- 責任感をもって粘り強く最後まで取り組み続ける

課題発見解決力

- 問題とその背景を複数の情報を整理・分析して明らかにする
- リスクや制約条件を考慮して問題解決のプロセスを構想する
- 目標達成に向けて行動し、状況に応じて修正する

資質・能力はどのように発達する？

資質・能力はどう育つ？①

× 人間は大人になれば勝手に成長する

○ 同じ状況、文脈の中で学べば成長する
(学びは文脈や状況に埋め込まれており、他の
場面に簡単に転移しない。)

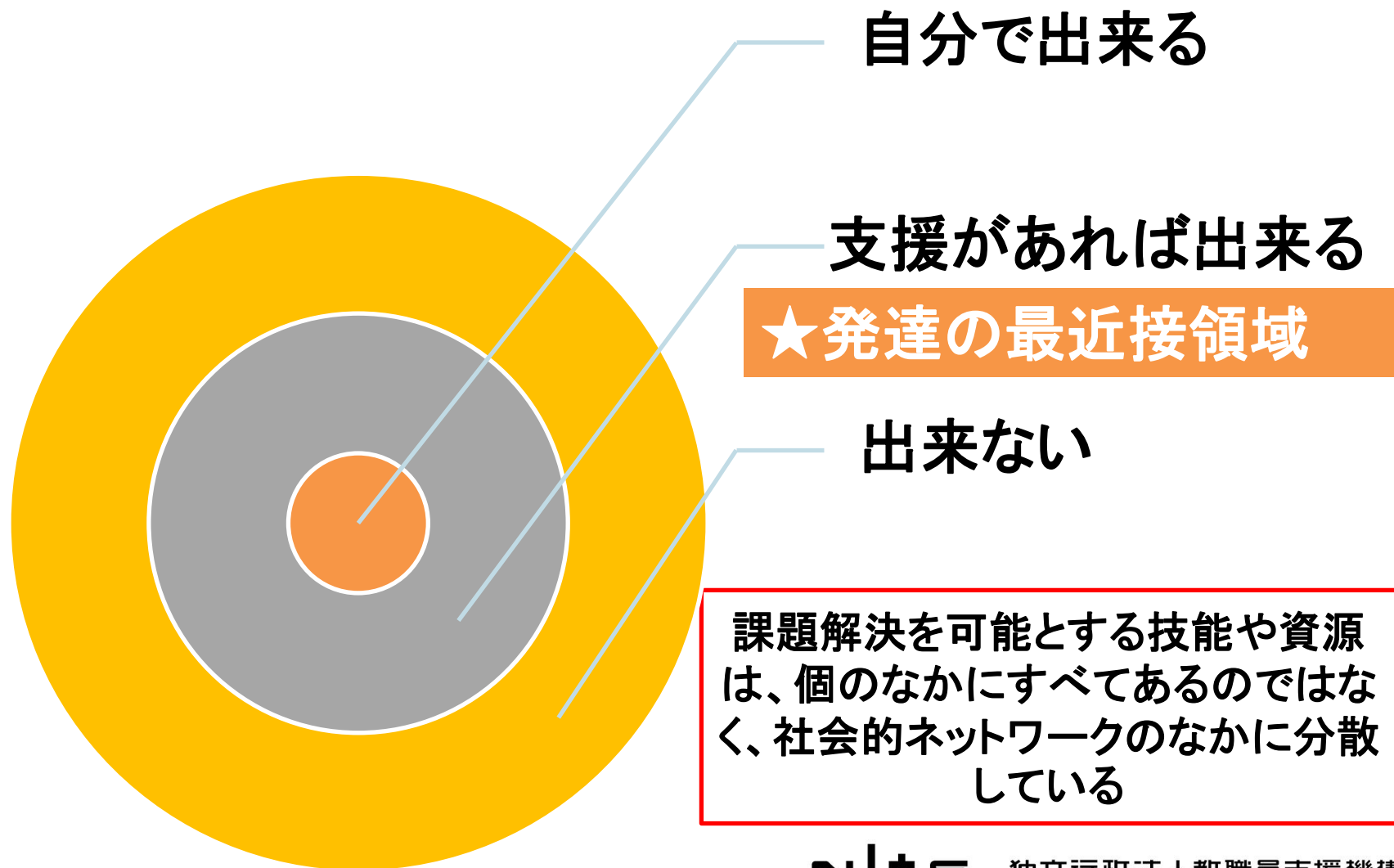
児童・生徒が一皮むける経験

例：地域の祭りの活性化に挑戦

困難を乗り越えて祭りに参画し、地域住民と協働した祭りを実現



ヴィゴツキー「発達の最近接領域」



資質・能力はどう育つ？②

自分で伸ばしたいと願い、自分で伸ばす力

生徒が「伸ばしたい」「自分に必要な力だ」と自覚する必要

伸ばしたいコン
ピテンシーの
設定



コンピを駆使す
る場面を創出



意識して取り組
む



振り返り
次はどうする？

意識してない
し出来ない

意識しても
出来ない

意識すれば
出来る

無意識に
出来る

子ども同士で企画・実践することと 地域の大人と協働して 企画・実践することの違い

- ・生々しい責任感、プレッシャー
- ・アイデアの実現

実践することの意義 リアリティが探究を加速する

例：放置竹林問題

解決策：竹細工の商品を作って特産品に

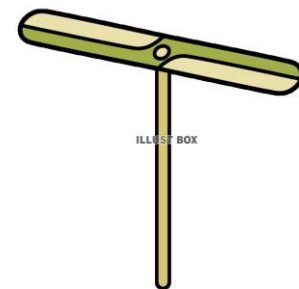
実践：1つを作るだけでも大変だと理解

⇒ 次の課題に直面

提案

実践

周囲や大人を巻き込んで
いくことの必要性を自覚



当事者意識を高めるSTEP

In

地域に入る
体験する
味わう

about

地域の課題、
資源、魅力
を知る

for

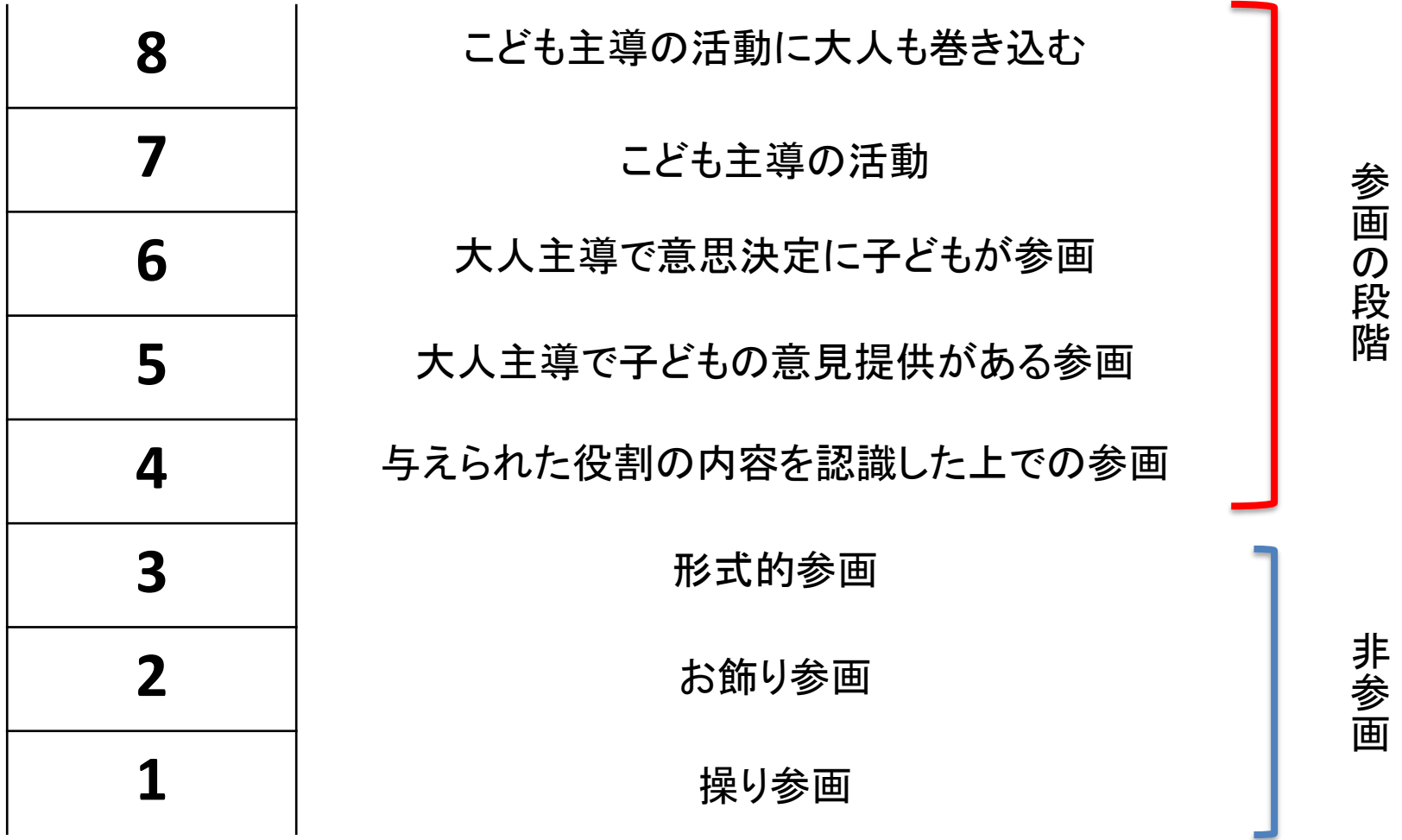
地域のため
に出来るこ
とを提案、
実践する

with

地域住民と
協働する

1 地域で学ぶ意義

参画のはしご



ロジャー・ハート(著), 木下 勇 (監修), 田中治彦 (監修), 南 博文 (監修), 『子どもの参画 - コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』萌文社、2000

2 地域との協働体制を構築する

地域との協働体制を構築するための4つのヒント

- ①校内でチームを作る
- ②地域の意志ある大人と繋がる(インタビューリレー、主体的な大人が生徒に火をつける)
- ③学校と地域でビジョンを描く、共有する
- ④協働できる仕組みを作る(魅力化推進協議会)

2 地域との協働体制を構築する

**地域連携の枠組みだけあっても実のある連携には
ならない**



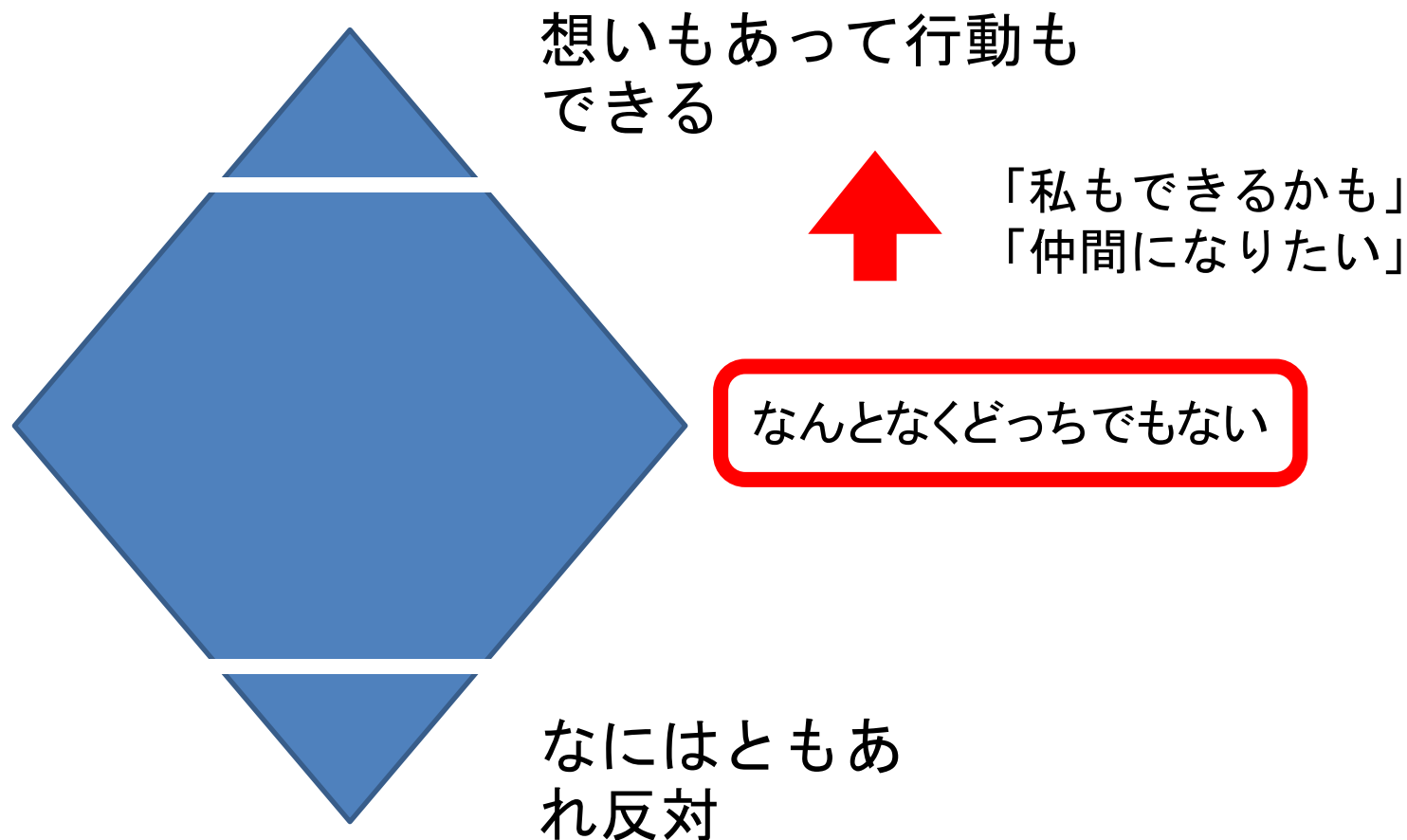
**まずは地域と協働した学
習活動に主体的な仲間で
動き出す**



**児童・生徒の成長を喜び
合う、教師も楽しむ**

2 地域との協働体制を構築する

中間浮遊層は集団で、反対派は個別で。

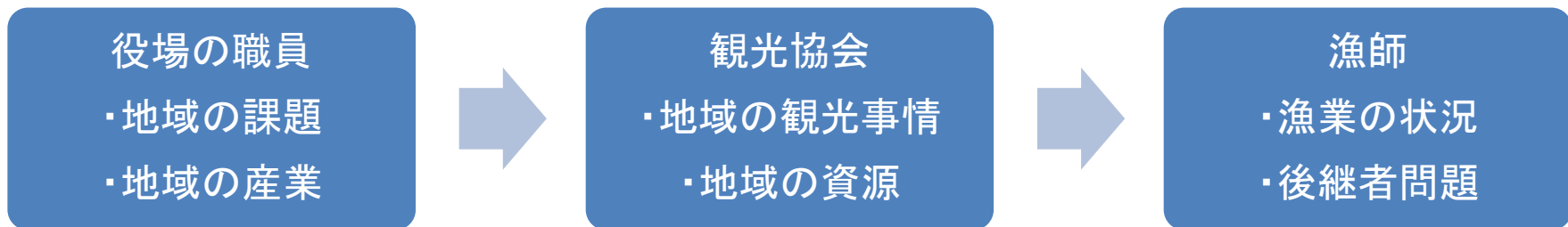


2 地域との協働体制を構築する

主体的な地域の大人と繋がる

いきなり組織同士で繋がらうことはない。
最初は人と人の繋がりに始まる

繋がるためのヒント：インタビューリレー



2 地域との協働体制を構築する

生徒の心に火をつける大人との交流

何が違いますか？

<BAD>

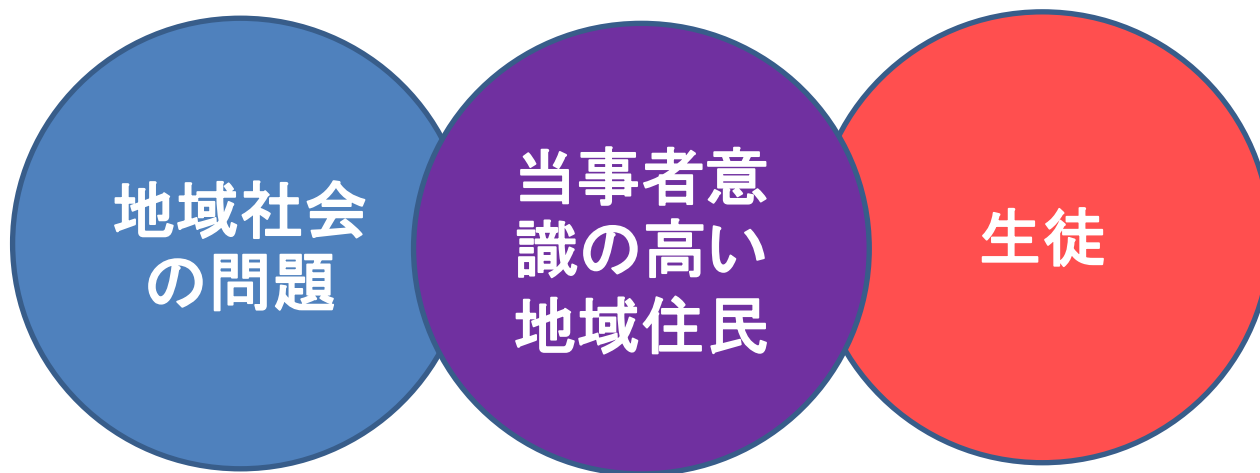
「とりあえず、うちの会社のキャッチコピー考えて。なんでキャッチコピーなのか？知らないよ。社長がそれやらせとけって言ってたから。」

<GOOD>

「この前、ボケ除け神社祭りってのをやったのよ。入居者さんが祭りに参加したいって寂しそうに言ってたからさ、施設に祠作って神輿作ってみんなで担いだのよ。そしたらみんなスゲー幸せそうでさ。本当にやって良かったと思ったよね。俺はこの仕事に誇りを持ってる。でも、多くの方は介護ときくだけで将来の選択肢から外してしまうわけ。君らもそうでしょ？後2人採用出来ればもっと良いサービスを生み出せるようになるんだけどなあ。」

2 地域との協働体制を構築する

関わる人を通して問題の当事者となる



当事者意識の高い人と接触することで自分の中の当事者性が触発され、「自分ごと」の意識が高まる

樋田有一郎（2015）「高校生の当事者性を育てるー地域型授業のモデル化をめぐるー」青少年問題研究会『青少年問題』第660号、42-47

2 地域との協働体制を構築する

学校と地域でビジョンを描き、共有する意義

協働とは？

立場の異なるもの同士が目的を共有し、対等な立場で互いのリソース(強み)を持ちより、役割分担したり互いに補完しながら取り組むこと

協力との違い

協力:互いに力を貸しながら取り組む

協働:目的を共有し、一丸となって取り組む

★協働の第一歩目は目指すものの共有

2 地域との協働体制を構築する

地域住民を巻き込んだビジョンづくり

**高校、役場、教委、議会、PTA、
地域・民間団体、中学校、卒業生会等**

◎コーディネーターを校内に配置

◎地域と学校・生徒の対話で共通ビジョン策定

◎実働する協働チーム・コンソーシアム構築

2 地域との協働体制を構築する

地域と協働してビジョンの実現に向かう仕組みを作る

①WGを設置して機動力を上げる

学校運営協議会

- ・意思決定機関
- ・人・モノ・金を動かす

ワーキンググループ

- ・実行部隊
- ・シンクタンク



2 地域との協働体制を構築する

地域と協働してビジョンの実現に向かう仕組みを作る

② 探究学習など地域協働の核はチームで

・毎週の学年会で総合的な学習の時間の目的を共有、内容を検討



2 地域との協働体制を構築する

地域連携に意欲的な先生だけが繋がっている学校



キーパーソンが異動すると地域とのつながりも途絶える

組織的に地域に繋がっている学校



人事異動があっても関係が持続する